

2010年度 新宿区多文化共生連絡会 分科会「しんじゆく多文化共生プラザのあり方検討」 中間のまとめ

新宿区多文化共生連絡会における「プラザのあり方検討」分科会では、7月16日の第2回全体会で顔合わせ、リーダー・サブリーダーの選出を行った後、7月27日、8月4日、8月31日の3回に渡り、プラザの運営について議論を重ね、以下のような課題と解決策を取りまとめた。

1 プラザを利用しやすくするために

- ・プラザを利用するのは在住・在勤・在学に止まらず、広い意味で新宿を訪れる人々であり、誰にとっても利用しやすいプラザでなければならない。
- ・来館者用PCの廃止、親子での利用が難しい、食事ができない等、利用しづらい要因がある。

プラン1 利用者アンケートの実施

利用者のニーズを把握するため、具体的な質問項目を多言語で作成する。

プラン2 懇談会の実施

利用者懇談会により、利用団体相互の活動紹介、交流、情報共有を図る。

個人利用者を対象とした交流会も実施する。

プラン3 PCの設置

利用者アンケートにより、インターネット利用のニーズを調査し、設置に向けた検討を行う（端末設置 or アクセスポイントのみ設置、セキュリティ管理、利用ルール等）。

プラン4 子どもの利用

親子づれで利用できるような託児付き事業を試行的に実施する。

プラン5 場所の検討

一般の方には分かりにくい場所にある。場所の移転を検討すべきではないか。それが難しい場合は、アンテナショップ的な出先機関を設置を検討する。

2 プラザのPRについて

- ・一部の外国人と支援団体に利用が限られているのではないか。
- ・日本人の地域や文化に外国人を引込む仕組みをつくるべきである。

プラン1 区役所外国人登録窓口

外国人登録手続きの待ち時間を活用したプラザのPRを検討する。

プラン2 ホームページ・広報紙の活用

プラザを広く周知するために、ホームページの内容を充実する。利用団体やコミュニ

ティ等のホームページからのリンクや検索キーワードの整備等により、アクセス件数の増加を図る。単に多文化共生プラザで検索してもらうのではなく、外国人が興味を持って検索できるようなタイトルやキャッチコピーを工夫する。あわせて広報しんじゅくを活用したPRを行う。

プラン3 イベントの実施

プラザを周知し、利用してもらうためのイベントを企画・実施する。企画段階から外国人に参画してもらうなどの働きかけが必要。また、積極的に地域に出向き、プラザをPRしていくべきである。

3 ネットワークづくりの推進について

- ・外国人との交流、団体どうしの連携によって、新宿の多文化共生のまちづくりを推進していく。
- ・プラザ利用者だけでなく、広く外国人のコミュニティを掴んで相互交流を推進していくことが重要である。

プラン1 外国人コミュニティの活性化

新たな外国人コミュニティの立上げの支援や既存のコミュニティの交流会を積極的に実施していく。